

## コール・トレンド

### —統計が語る石炭需給・価格の動向— ～米・豪の政府機関が伝える最新中国石炭事情～

化石エネルギー・電力ユニット 担任・理事 森田 浩仁

今月号では豪州、南アフリカの市況、我が国における入着価格の動向についてお伝えし、併せて米国・豪州の政府機関がレポートする中国の生産・消費・輸入の動向について報告する。

#### 1. 豪州、南アのスポット価格と我が国着価格

##### (1) 豪州、南アの一般炭実物取引価格の動向 (2014年1月～2014年5月)

図1. は豪州ニューカッスル (NC) の2014年1月から翌2014年5月にかけてのスポット実物取引の成約価格を時系列的に示したものである。

NCにおいては、2014年1～5月には113件のスポット取引が成約している。2013年1～5月における取引成約数は87件であったため、2014年は対前年比で26件(30%)も増加している。

図1. で囲みの中に示された数字は、当該月の最終取引の価格を示したものである。

2013年の10月から12月にかけて85 US \$/トン若干上回るレベルで推移したスポット価格であったが、2014年になると再び下降に転じた。2014年1月の最終取引80.00 US \$/トン、2月77.60 US \$/トン、3月75.00 US \$/トン、4月76.75 US \$/トン、そして5月は73.00 US \$/トンと再び75 US \$/トンのレベルを下回った。

このようなスポット価格の低調を反映し、わが国電力会社との2014年4月起こしの新規契約価格は81.80 US \$/トンへと2014年1月起こし価格に比べ5.60 US \$/トンも下げた。

図1. 豪州ニューカッスル (NC) 港積み成約取引価格 (実物)  
(2014年1月-2014年5月)

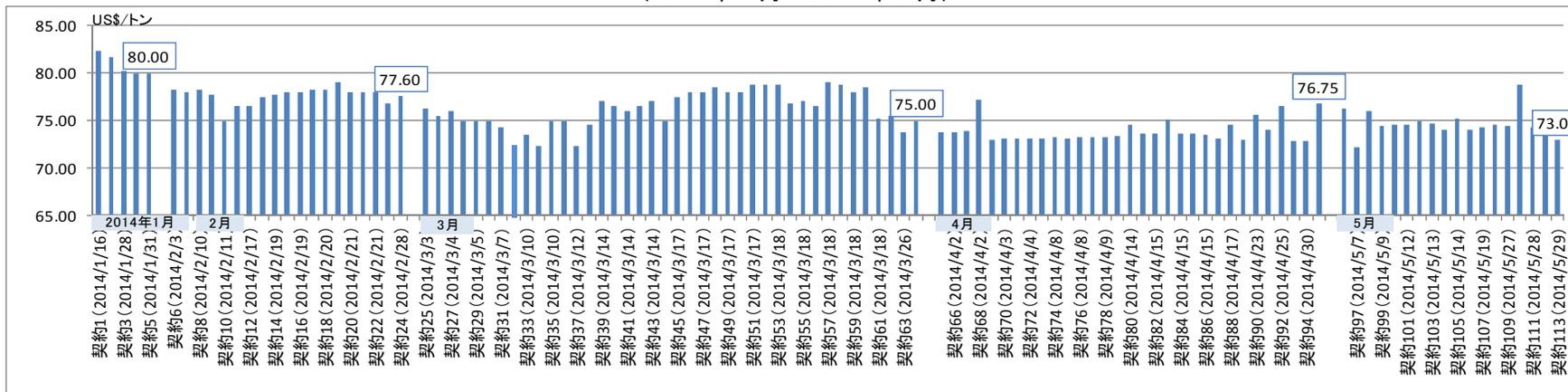
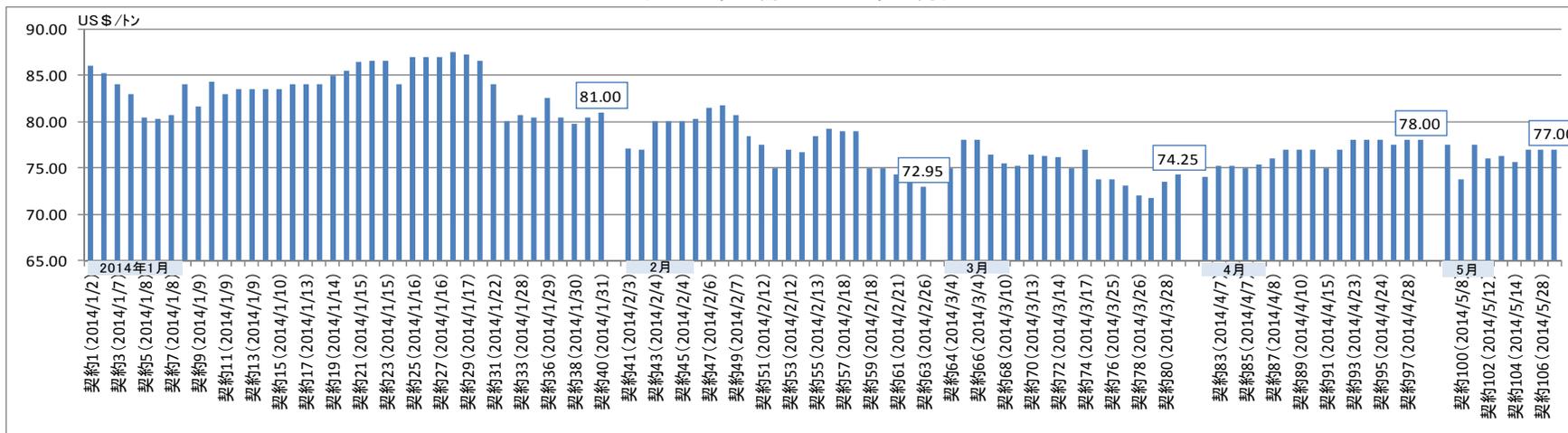


図2. 南アフリカリチャーズベイ (RB) 港積み成約取引価格 (実物)  
(2014年1月-2014年5月)



出所) global COAL 資料より作成

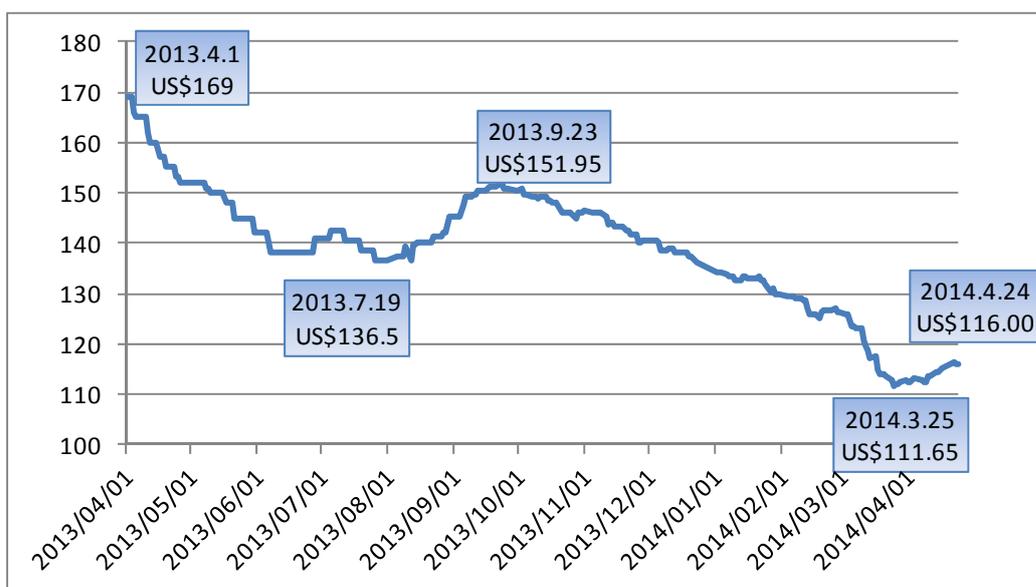
南アフリカリチャーズベイ (RB) 積みの取引は2014年1-5月で107件のスポット取引が成約した。前年1-5月期では82件であったため、RBにおいてもNCと同じく30%も成約数は伸びた。

値動きの傾向もNCと似たものとなり、2014年1月の後半に下降傾向に転じ、2月に入ってから降下スピードを速めた。同月の最終取引は72.95 US\$/トンにまで落ち込んだ。1月の最終取引と比較すると8.05 US\$/トンも下落したことになる。しかし、3月末になると反転傾向を見せ始め4月末、5月末取引の成約価格はそれぞれ78.00 US\$/トン、77.00 US\$/トンとNCを上回った。

## (2) 原料炭スポット指標 (Index) 価格の動向

下図は IHS McCloskey Australian prime hard coking coal FOB の推移、つまり豪州出しの強粘結原料炭 Index 価格の日ごとの推移を示したものである。

図 3. 豪州強粘結原料炭 Index 価格の推移  
(2013年4月1日-2014年4月24日)



出所) IHS

2013年9月23日をピークとし、半年間も下降を続けてきたが、2014年3月25日の111.65US\$/トンまで底として反転、上昇傾向に転じた。4月24日には116.00 US\$/トンにまで値を戻している。

しかし、わが国高炉向け QLD 州産強粘結炭の2014年度第1四半期(4-6月)の価格は120 US\$/トンと、1年前の2013年度第1四半期と比較すると52 US\$/トン、直前の2013年度第4四半期(2014年1-3月)との比較でも23 US\$/トンも値を下げている。

## (3) 我が国着の輸入価格

—原料炭にみえる下げ止まり傾向は方向性の転換、あるいは小康状態?—

表1. は我が国着の輸入炭価格の2014年1月から4月までの推移を示したものである。

表1. 我が国着の輸入炭価格 (2014年1月—2014年4月)

	2014年1月価格		2014年2月価格		2014年3月価格		2014年4月価格	
	¥/トン	\$/トン	¥/トン	\$/トン	¥/トン	\$/トン	¥/トン	\$/トン
全輸入量	12,004	114.70	11,713	113.97	11,569	113.19	11,646	113.61
炭種別								
原料炭	13,490	128.90	12,945	125.96	12,416	121.47	13,127	128.06
一般炭	10,900	104.15	10,861	105.68	10,818	105.83	10,404	101.49
無煙炭	14,670	140.17	13,561	131.95	14,770	144.50	14,297	139.47
ソース別								
豪州	12,111	115.72	12,004	116.80	11,846	115.89	11,512	112.30
インドネシア	10,035	95.88	9,881	96.14	9,693	94.83	9,897	96.54
カナダ	15,774	150.72	14,397	140.08	14,289	139.79	14,865	145.01
中国	16,247	155.23	12,789	124.44	15,680	153.40	14,069	137.24
米国	15,899	151.91	13,635	132.67	15,797	154.54	15,006	146.38
ロシア	11,854	113.26	11,514	111.76	11,079	108.39	10,811	105.46
南アフリカ	11,573	110.57	-	-	-	-	-	-
ニュージーランド	-	-	-	-	-	-	17,005	165.88
ベトナム	14,118	134.89	15,015	146.10	14,021	137.17	14,647	142.88
モンゴル	-	-	790,000	7,687.06	-	-	-	-
モザンビーク	-	-	-	-	-	-	-	-
コロンビア	14,544	138.96	-	-	-	-	-	-
原料炭ソース別								
豪州	13,958	133.37	13,990	136.13	13,229	129.42	13,357	130.30
インドネシア	10,638	102.13	10,356	100.77	10,055	98.38	10,442	101.86
カナダ	17,106	163.45	15,793	153.67	15,508	151.73	15,464	150.85
中国	11,952	114.20	12,839	124.93	15,859	155.15	14,996	146.29
米国	17,751	169.61	15,233	148.22	15,798	154.56	15,627	152.44
ロシア	13,200	126.12	12,344	120.11	12,286	120.20	12,454	121.49
ニュージーランド	-	-	-	-	-	-	17,005	165.89
モンゴル	-	-	-	-	-	-	-	-
モザンビーク	-	-	-	-	-	-	-	-
一般炭ソース別								
豪州	11,208	107.10	11,210	109.08	11,134	108.93	10,512	102.54
インドネシア	9,223	88.12	9,220	89.71	9,062	88.66	9,120	88.96
カナダ	10,505	100.37	9,838	95.73	12,476	122.05	10,804	105.40
中国	12,425	118.72	12,478	121.42	10,836	106.01	12,160	118.62
米国	9,198	87.89	10,791	105.01	-	-	13,856	135.17
ロシア	10,711	102.34	10,696	104.08	10,413	101.88	10,174	99.25
南アフリカ	11,574	110.59	-	-	-	-	-	-
コロンビア	14,544	138.97	-	-	-	-	-	-
	US1\$=¥104.66		US1\$=¥102.77		US1\$=¥102.21		US1\$=¥102.51	

出所)「日本貿易統計月報」より作成

全輸入量の入着価格は2014年1月の114.70 US\$/トンから2月以降113 US\$/トン台で推移した。

炭種別に見てみると、原料炭は3月の121.47 US\$/トンから4月には128.06 US\$/トンへと6.59 US\$/トンも値を戻したが、一般炭は同時期において105.83 US\$/トンから101.49 US\$/トンへと4.34 US\$/トンも値を崩した。

今後の入着価格を展望すると、わが国電力向けの2014年4月起こし価格の一挙5.60 US\$/トンの下げが、5月以降の一般炭入着価格の下方圧力となり影響を及ぼしてゆくことであろう。

4月には上昇をとげた原料炭入着価格であるが、上述した強粘結原料炭 Index の上方転換とともに値を上げてゆくかという、話はそれほど単純ではなさそうだ。わが国高炉向け価格は1-3月期の143 US\$/トンから4-6月期の120 US\$/トンへと大幅な下落が報道されており、この▲23 US\$/トンが5月以降の入着価格にとって下方圧力とならざるを得ないだろう。

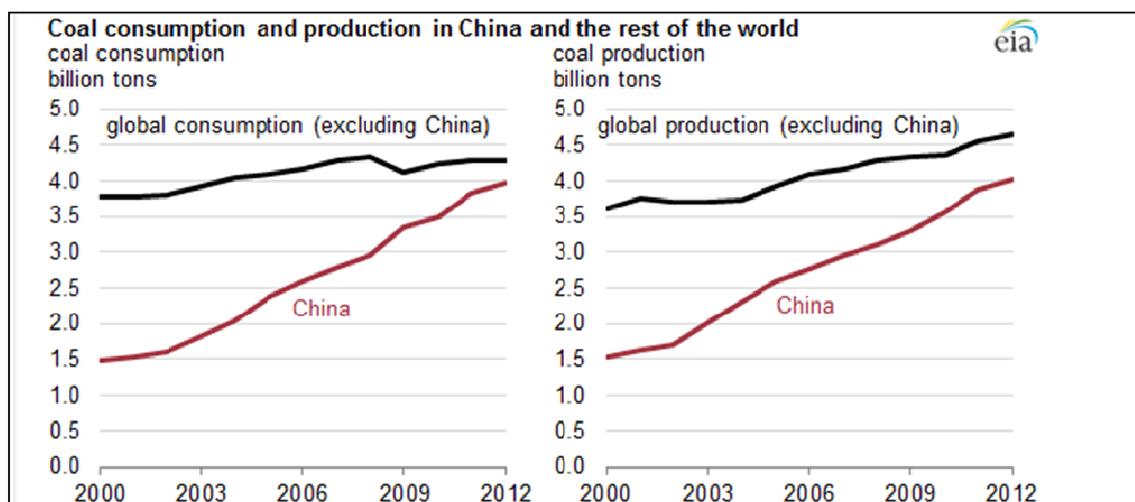
原料炭入着価格の下げ止まりは、一時的な小康状態とみるのがよいのではないか。

## 2. 米・豪の政府機関が伝える最新中国石炭事情

### (1) 米国エネルギー省が伝える中国情報

米国エネルギー省エネルギー情報局（EIA）が2014年5月14日に更新した「Today in Energy」欄において、「中国の石炭生産・消費量は世界の残りすべてを合わせたものと同程度」という記事が紹介されている（China produces and consumes almost much coal as the rest of the world）。

図4. 石炭消費量と生産量の比較（中国 対 その他）



出所) 米国エネルギー省・エネルギー情報局 (EIA)

同報告書によると、2012年において中国の石炭生産・消費量は13年連続の増加を記録し、生産・消費量とも約40億トンに達する。世界の生産量の46%、消費量の49%は中国によるものであり、過去10年間に世界で増加した生産量32億トンの69%、増加した消費量23億トンの83%は中国一国によるものであるという。

ここまでは、本稿の読者の皆様にとって、目新しいものではないと推察する。以下、2013年以降の中国の石炭関連動向について報告を行う。

(2) 豪州BREE(Bureau of Resources and Energy Economics)が伝える中国石炭最新動向  
豪州連邦政府のMinistry of Industryに属するBREE(Bureau of Resources and Energy Economics)という機関が、資源、エネルギーに関する情報の収集、発信を行っている。

BREEが定期的にHPに掲載する発刊物に「China Resources Quarterly」がある。2014年5月9日にHPに発表された最新版から中国の石炭関連最新情報を紹介する。

「China Resources Quarterly, Southern autumn~Northern spring 2014」号の記事は以下のように述べる。

2014年第1四半期における中国経済の成長率は、潜在力を下回るものであった。

特に重工業の伸びは鈍く、昨年12月から今年2月にかけて在庫が急増した。この間、生産を調整することにより需給の調整を図り、現在では最悪期を脱した。

経済成長は中庸なものであったにもかかわらず、2013年における資源・エネルギーの利用は上昇傾向を維持した。鉄鋼生産は9%拡大を遂げ、史上最大の7億7,500万トンを記録し、鉄鉱石の輸入は8億2,000万トンにも達した。このため、石炭消費量を抑えようとする政策が実施されたにも関わらず、石炭消費量は2.6%拡大し36億1,000万トンにまで拡大した。

下記の2表に見る通り、2013年における石炭の輸入量は、原料炭、一般炭とも2012年比で拡大を遂げている。しかし、2014年になると原料炭に異なる風景が見えてくる。

表 2. 中国の原料炭輸入量の推移

	2012年					2013年					2014年
	1-3月	4-6月	7-9月	10-12月	計	1-3月	4-6月	7-9月	10-12月	計	1-3月
輸入量	12.2	15.4	8.9	17.0	53.5	17.2	18.1	19.4	20.7	75.4	13.0
うち豪州	6.9	4.8	3.6	13	28.3	9.1	9.8	12.4	14.0	45.3	9.9

単位:100万トン

(出所) BREE「China Resources Quarterly, Southern autumn~Northern spring 2014」号より作成

2014年の第1四半期における原料炭の輸入量は1,300万トンであったが、これは前年同期比で24.5%の減少となる。この減少はカナダとモンゴルからの輸出量の急減によるところが大きい。それぞれが対前年同期比で42%、22%の減少を記録した。逆に、豪州からの

輸出量は9%増加した。

2014年においては第2四半期以降においても原料炭の消費は伸びないと見込まれている。鉄鋼生産が伸びず、3,000万トンもの生産設備が閉鎖されると見込まれているからである。

表3. は中国の一般炭輸入量の推移を示している。

近年の石炭価格の低迷により中国の生産者は経済的に厳しい状況を強いられ、小規模生産者には閉山に追い詰められるものも出てきている。特に、相対的に輸送コストの高い内蒙古自治区の生産者が受ける打撃は大きい。

表3. 中国の一般炭輸入量の推移

単位:100万トン

	2012年					2013年					2014年
	1-3月	4-6月	7-9月	10-12月	計	1-3月	4-6月	7-9月	10-12月	計	1-3月
輸入量	49.3	62.9	54.4	68.5	235.1	62.8	60.5	60.9	67.6	251.8	71.0
うち豪州	8.1	11.4	11.3	14.8	45.6	12.9	12.2	17	15.9	58.0	15.4
うちインドネシア	25.1	30.5	23.6	36.5	115.7	33.1	29.4	27.8	32.8	123.1	35.7

(出所) BREE「China Resources Quarterly, Southern autumn~Northern spring 2014」号より作成

表3. に見る通り、2014年第1四半期においては、一般炭（含む褐炭）の輸入量は対前年同期比で13.1%上回る7,100万トンに達した。豪州からの輸入量は同19.7%拡大し、インドネシアからの輸入量も8.1%拡大しほぼ3,600万トンに達する。

(以下次号に続く)

お問い合わせ: report@tky.ieej.or.jp